

お薦めの本の紹介文を書こう

国語 第6学年
小松市立安宅小学校

1 事例の概要

(1) 児童の実態

本校児童は、情報を目的に応じて理解、解釈し、それを基に自分の考えをもち、筋道を立てて表現するという読解力に課題がある。そこで、国語科を基盤にし、各教科等で「読んで、思考し、表現する」という言語活動を充実させることで、教科等のねらいを達成するとともに、言語能力を高めて活用力を育成し、「自分の考えをもち、自分の言葉で表現する子」をめざす。

(2) 授業改善

① 学習意欲の向上

すべての教科等で、児童自身がめざす姿を意識し、学びの自覚化ができる工夫をする。国語科では、児童の実生活に即した読みのゴールの設定、学習の見通しを持つ工夫、考えたくなる言語活動の工夫をする。

② 「読み」の基礎基本の習得

系統性を踏まえた指導、「読み」の手立てを探る教材研究、既習を活かす工夫、自分の考えをもつ時間の確保と交流の場の設定をする。

③ 「読み」の基礎基本の力の活用場の工夫

単元構成の工夫、多様な考えをもてる課題設定の工夫、書いたものをもとに交流する場の工夫をする。

A-1 研究主題

A-2 構想図

A-3 学校研究

2 実践内容

(1) 単元の目標

- ・様々なジャンルの本に関心をもち、読書への意欲をもとうとする。(関心・意欲・態度)
- ・自分が薦めたい本の魅力を、情景描写などの表現方法を工夫して発表する。(書くこと カ)
- ・自分が薦めたい本の魅力を、情景描写を工夫したりキャッチコピーを作ったりしながらまとめる。(書くこと エ・オ)
- ・筆者の心の動きと場面の情景を叙述に即して読む。(読むこと エ)
- ・本を紹介するために、表現の工夫に注目して読む。(読むこと カ)
- ・筆者の情景描写における比喩的な表現などに注目し、その効果を理解し味わうことが出来る。(言語事項 イー(ケ))

(2) 指導上の工夫点

① 学習意欲の向上のために

- ・「森へ」で学習した表現の工夫を本の紹介活動で活かし、読書発表会を行うというゴールを設定し、学習の見通しをもたせる。

② 「読み」の基礎的・基本的な力の習得のために

- ・文章の中の効果的な表現を味わったり想像したりし、その表現で感じたことについて話し合い、自分の考えをまとめるという言語活動を取り入れる。

③ 活用場の工夫

- ・紹介文を書くコツについて考える場を設定し、2つの文章を比べて考えるという言語活動を

通して「森へ」で学習した表現方法の効果を改めて振り返り自分の紹介文に活かせるようにする。

- ・書いた紹介文を交流し、自己評価、相互評価する。

B-1 単元計画

B-2 ワークシート

3 指導の実際

目標… 2例の紹介文を比較することで、紹介文を書くためのコツについて考える。(読む カ)

紹介文を書くためのコツを自分の紹介文づくりに活かそうとしている。(関・意・態)

	学習活動	評価 支援(○)と留意点(◆)
つかむ	1. 本時のめあてを確認する。 ・聞いた人が読みたくなるような紹介文をつくりたいな。 本の紹介文を書くためのコツをつかもう。	◆紹介文作りへの意欲を持たせるために、学習の見直しを確認する。 ◆紹介文を固定的にとらえないよう、一つ例として提示する。
深める	2. 2つの紹介文の例を読み比べ、それぞれの長短について考える。 ・Bのキャッチコピーを見るだけで興味がわいてくるね。 ・Aの最後の文章が呼び掛けになっていていいと思うよ。 ・Aには擬人化や倒置法があるよ。 ・Bには擬声語が使われている。 3. それぞれの長短について話し合う。 ・Bのキャッチコピーの方が見ただけで読みたくなるよ。→キャッチコピーを工夫しよう。(コツ①) ・文末が問いかけになっていると、気になって読みたくなるね。 ・擬人化、倒置法、擬声語などの工夫があるとイメージがわかりやすいね。 ・写真や絵を工夫するともっと伝わりやすくなると思う。	◆双方の長所や短所について比較できるように助言する。 ◆それぞれの工夫の効果についても考えさせる。 紹介文を書くためのコツやその効果について考えている。(読む カ) ○表現方法の工夫という視点で考えられない児童には、「森へ」の学習を想起させることで、比喩や擬人化、倒置法などの表現方法の工夫に気づかせる。
まとめる	4. 本の紹介文を書くためのコツについてまとめる。 ・キャッチフレーズを考えよう。 ・写真や挿絵を効果的に使おう。 ・文章の表現を工夫しよう。 5. 自分の紹介したい本についての紹介文について考える。 ・どんなキャッチコピーにしようかな？ ・比喩や擬人化など表現を工夫しよう。 ・読みたくなるように、文末を工夫しよう。 ・どの写真(挿絵)をどこに使おうかな？	◆読み取った工夫点が、紹介文を書くためのコツへとつながるようにする。(板書・ワークシート) 紹介文を書くためのコツを自分の紹介文づくりに活かそうとしている。(関心・意欲・態度) ○自分の紹介文として具体的に考えられない児童には、キャッチコピー、挿絵など比較的工夫しやすいものから考えるよう助言する。

C-1 指導案

C-2 板書

4 成果と課題

(1) 成果

- ① ゴールの設定により、目的をもって意欲的に取り組むことができた。
- ② 「森へ」を読む際に、表現技法を用いた場合と用いない場合の文章を比べながら、効果について感じたことを話し合ったことで、表現の効果を体感的に理解できた。
- ③ 紹介文を書くコツを考える場で、それぞれによさや問題点がある2つの例文を扱ったことで、表現方法の工夫という視点で比較しようという子どもたちの目的意識が明確なものとなり、本の紹介文について柔軟かつ具体的なイメージをもつことができた。

(2) 課題

表現方法の工夫のよさを、個人からグループへと広めることをねらい、2つの例文のよさを見つける際に、グループ交流を取り入れた。しかし、本時の流れから考えてこのグループ活動が効果的であったとはいえない。グループやペア交流のねらいをより明確にしていきたい。